

文部科学省委託

「日本語指導が必要な児童生徒等の教育支援基盤整備事業(動画コンテンツ開発)」

研修用 動画コンテンツ 3

日本語指導の方法 1

サバイバル日本語・日本語基礎プログラム



研修（動画視聴）のねらい

子供一人一人の多様な実態に応じて日本語のコース設計をすることの重要性を理解し、日本語の初期段階の指導として、サバイバル日本語・日本語の基礎プログラムの内容と指導方法の基礎を知る。

キーワード

- ・多様性に応じた指導
- ・個別の指導計画 目標と内容(5つのプログラム)
サバイバル日本語／日本語基礎／技能別日本語／日本語と教科の統合学習
／教科の補習 + 母語・母文化、キャリア教育、多文化共生の考え方に基づく教育
- ・サバイバル日本語プログラムの指導内容・方法
- ・日本語基礎プログラムの指導内容・方法
- ・初期段階の日本語指導の留意点(来日直後からの指導)

1 多様性に応じた指導 — 個別の指導計画 —



子供たちの背景の多様性(3人のケース)

○: 流暢
△: 支援が必要
×: 苦手としている

アン(7歳)

日本生まれ

幼保経験なし

話す: △

読み書き: 0から

母語: スペイン語

話す○



ロイ(11歳)

8歳来日(3年目)

話す: ○

読み書き: △

教科: ×

母語: ネパール語

話す○



テンテン(14歳)

14歳来日(0ヶ月)

日本語: 0から

教科: ○

母語: 中国語

年齢相当



子供の実態把握

A 文化間移動

来日年齢、滞日期間、
来日の理由、将来の居住予定

B 発達状況と環境

現在の年齢と発達状況
背景言語・文化（漢字圏かどうかを含む）
家庭環境（使用言語、保護者の言語（日本語・母語の力））

C 教科の力と学習経験

学習経験（出身国・地域のカリキュラム）
学力と在籍学級での学習参加状況

D 言語の力

日本語の力と母語の力（DLA等を利用）
・4技能 聞く・話す 読む・書く
・生活言語能力 学習言語能力

多面的に！
複数の目で！
定期的に！



日本語指導の目標と内容(5つのプログラム)

3つの目標(全体的目標)

- (1) 学校・社会生活における
コミュニケーションのための
日本語の力を身につける
≒生活言語能力
- (2) 教科等の学習に参加するための
日本語の力を高める
≒学習言語能力
- (3) アイデンティティ形成・自己実現に
向けてことばを使う力を育む

内容(→プログラム化)

- A 生活場面の語彙・表現、会話
- B 日本語の発音・文字・文法などの
基礎的知識・技能
- C 文章の読み・書きの技能
まとまった内容を聞く・話す技能
- D 教科等の学習に必要な思考を
支える日本語
- E 社会的活動に参加するための
日本語

日本語のコース設計—プログラムを組み合わせ— ⇒「個別の指導計画」の作成

	～6か月	～1年	～1年6か月	～2年
サバイバル 日本語	→			
日本語基礎 文字・表記 語彙・文法	→	→		
技能別 日本語		→	→	→
教科と日本語 の統合学習		→	→	→
教科の補習	適宜	→	→	→

子どもたちの生活・学習場面に
関わらせ課題遂行型
(タスク)活動で日本語を
使って行動できるように

この後の漢字語彙、文法の
学習は、技能別の学習に
組み込んで

1センテンスではなく、
文章・談話の学習

教科等の内容と日本語の
統合学習の考え方で実施
(文科省開発「JSLカリキュラム」)

在籍学級と相談して、母語
支援が可能であれば母語で

学級・学年・学校の総合・
学活等の学習に関連づけて

母文化・
多文化共生・
キャリア教育

緑: 小学校低学年 青: 小学校高学年以上

日本語のコース設計:「個別の指導計画」

例1) アンさんの指導計画(日本生まれ・小1・家庭内はスペイン語)

プログラム/ 期間	~3ヶ月	~6ヶ月	~1年
サバイバル 日本語	挨拶、自己紹介、 健康観察、日付、連絡帳	学校探検、日直、給食、 掃除、教科、宿題	係の仕事、学校行事、 地域の様子
日本語基礎	運筆、音-文字、 表記(平仮名清濁音)	音-文字、 表記(平仮名特殊音、 片仮名清濁音)	表記(平仮名(復習) 片仮名特殊音)
	身の回りの事物の名称 名詞文	日常生活に必要な語彙 動詞文、形容詞文	
国語科		挿絵等で題材文全体の意味や語の確認	
その他	在籍学級でスペイン語で挨拶紹介、紙芝居・絵本の読み聞かせ		

<ポイント>

- ・日本生まれだが経験が乏しい。学校や社会を知り、日本語で行動できるように。
- ・萌芽的リテラシーの不足を補う活動を。書きことばのインプットを重視して。
- ・クラスメイトにアンさんの言語・文化への関心を高める働きかけを。



日本で生まれたけど、ずっとお家にいる。たまに、近所のミキちゃんたちと遊ぶけど、日本語はあんまりわかんない。スペイン語はしゃべるけど書けない。早く友達ができるといいな。



例2) ロイさんの指導計画(来日3年目・小5・家庭内はネパール語)

日本語はもう大丈夫。でも、勉強は分からない。社会科見学とか好きだけど、教科書は知らないことばばかりだし、漢字がいっぱいある。言いたいことがあっても、なんて書けばよいかわからないから、書くのは苦手。

プログラム/ 期間	～6ヶ月	～1年	～1年6ヶ月	～2年
日本語の基礎	初級文型や基礎的な文法項目について習得状況を確認し、必要に応じて指導。 継続的な漢字学習(在籍学級での国語科の授業に関連づけて)			
技能別日本語	ロイさんの関心にもとづき、ジャンルを決めて作文の指導をする。			
	文と文のつながり、紹介文「ネパールの遊び」等	文章構成、説明文「新幹線の種類」等	根拠を示した主張、語彙・表現 意見文「ユーチューバーの仕事」等	
内容と日本語の 統合学習 (JSLカリ)	ロイさんが好きだが日本語で躓いている社会科で「JSLカリキュラム」を実施する。 各単元に先行して1時間、単元の重要な内容・概念を、絵図・写真等の読み取りを通して理解を促す。			
キャリア／母語 母文化教育	中学校生活をイメージさせる。	ネパール語と日本語の特徴	将来の仕事、社会との関わり	親に来日理由をインタビュー

＜ポイント＞・学習言語能力の発達を促すための、指導(技能別日本語、JSLカリキュラム)を中心に
・自身の背景文化へのアイデンティティを安定化させ、将来像を描けるように。

例3) テンテンさんの指導計画(来日1年目の中学2年生・家庭内は中国語)

プログラム/期間	~6ヶ月	~1年	~1年6ヶ月	~2年
サバイバル日本語	健康、挨拶、緊急対応の語彙・表現、学校施設・教科名等		行事等の有無に応じ、関連情報と対応するための日本語を指導	
日本語基礎	音-文字の対応(平仮名)→片仮名・漢字(小1~2年)→漢字(教科内容に関連づけて)			
	名詞文・動詞文・形容詞文	初級文型(活用、文末表現、複文)	初級後半の文型、技能別日本語の作文・読解活動に関連づけて	
技能別日本語		「モデル文の読解」と「作文」指導 紹介文、説明文、意見文、鑑賞文	小論文指導 受験のための面接指導	
内容と日本語の統合学習(JSLカリ)	既習の教科関連用語の日本語を指導	社会科・理科を、在籍学級の進度に合わせて「JSLカリキュラム」で実施		
		※可能であれば、母語による教科補習を実施		
キャリア教育	外国人卒業生の話を聞く		職業と資格について学ぶ機会を設ける	



将来は、カウンセラーの仕事をしたい。勉強は好きだし、中国では国語と英語が得意だった。でも、日本語がわからないから心配。

<ポイント>

- ・英語学習経験や認知的な力を生かすため、基礎日本語プログラムを体系的に実施
- ・教科学習では、学習経験・学力、母語の力を活性化して
- ・将来像の具現化のための情報提供を

2 日本語指導の方法(初期段階) サバイバル日本語プログラム



サバイバル日本語 活動例1

学習項目の選び方:生活上の必要性・緊急性から必要な表現を選定する。

健康・安全／関係作り／学校生活

教え方:実際の場面を示し、そこで使用する日本語の語彙や表現を聞かせ、それをそのまま繰り返して言う練習をする。

学習項目 「おなか、いたい」

活動(指導の流れ)

アンさん(2週目):ジェスチャー+「～、いたい」
テンテンさん(2週目):語彙カード等で「～が いたい」

1	実物やイラストを使って、体の名称の言い方を理解させる。
2	イラストやジェスチャーで「いたい」の意味を教え、体の部位と合わせて、「～いたい」の言い方を練習する。

- 留意点
- ・聞いて理解できるようになることが目的ならば、発話を求めず、ジェスチャーで伝えることができればよい。
 - ・実際に保健室に行き、養護教諭との顔合わせもする。



サバイバル日本語 活動例2

学習項目 「教室」(教室移動の場面で)

活動(指導の流れ)

1	写真や絵を使って、教室名を確認する。
2	「～へ行こう／行きましょう」と言う練習をして、学校探検をする。(行った教室毎にシールやスタンプをもらおうと楽しい。)
3	教室に戻り、校内地図に教室名を書く。

留意点

- ・保健室や職員室、国際教室など、利用頻度の高い教室の位置を確認しながら語彙・表現を教える。
- ・1回で全ての教室の場所を覚えることは難しい。数回に分けて実施。
- ・転編入直後には教室移動に不安を覚えることが多い。
担任やクラスの児童生徒に、声かけの協力をお願いします。

アンさん(3週目～):

見取り図は使わず、学校探検等で「教室名・絵カード」を利用して見て分かるようにする活動を中心に行う。生活科の「学校探検」の学習と並行して指導を行うことも考えられる。

テンテンさん(1週目～):

使用頻度の高い教室名には漢字表記に平仮名を振るとよい。



サバイバル日本語プログラムの学習項目(シラバス)の例

健康・安全	関係づくり	学校生活
①保健室の場面で 表現:「いたい」「大丈夫」 「いつから？」	①朝の場面で 表現:「おはよう」 「元気？」	①授業の場面で(先生の指示) 表現:「見て」「聞いて」 「読んで」「書いて」
②給食の場面で 表現:「たべる・たべない」 「アレルギー」	②物の貸し借りの場面で 表現:「忘れた」「貸して」 「ありがとう」	②授業の場面で(やり取り) 表現:「わかる・わからない」 「できる・できない」
③許可を得る場面で 表現:「トイレいい？」 「水筒 いい？」	③遊びの場面で 表現:「遊ぼう」「いれて」 「いいよ」「何する」	③授業の場面で(教科名) 表現:「1時間目、何？」 「国語」「算数」
④登下校の場面で 表現:「右・左」「止まれ」 「危ない」「助けて」	④けんかの場面で 表現:「やめて」「だめ」 「ごめんなさい」	④教室移動の場面で 表現:「体育館へ行こう」 「1時間目は音楽室」

3 日本語指導の方法(初期段階) 日本語基礎プログラム



○	●	●	●	●	●
白	ちい いろ	ぎい いろ	く ろ	あ か	色 の な ま え
●	●	●	●	●	〜
は な ず み い ろ	ピン ク	水 色	青	み ど り)

日本語基礎1 発音・文字（語彙も合わせて） 活動例1

学習項目の選び方: 児童生徒の生活場面で使う語や興味関心のある事柄に関する語を選択する。関連のある語を組み合わせ、グループを作って扱う。

教え方: 発音と文字、音・文字と語彙を合わせて指導し、子どもにとって、意味のある学習活動にする。

学習項目 「ひらがな(あ行～さ行)」

活動 (指導の流れ)

アンさん: 在籍学級での学習進度に合わせて
テンテンさん(1週目~):
50音図で日本語の音体系を示し、その日に学習した文字を確認。

1	文字を見せ、はっきり発音して、文字と音のマッチングをする。 「ひらがな1文字カード」の並び替えやカード取り、言葉作りをする。
2	運筆に気をつけて書く練習をする。



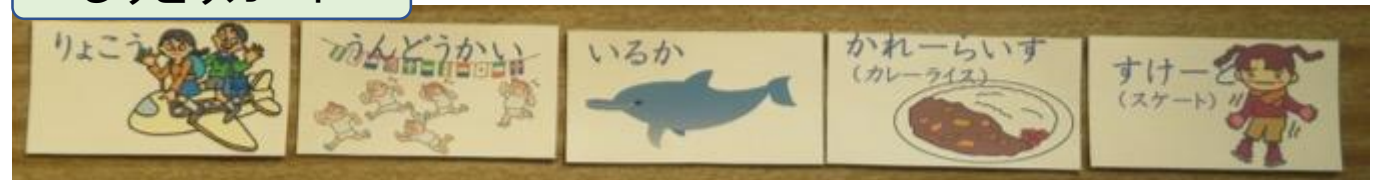
留意点

- ・低学年児童などは文字学習の経験があまりないケースもある。
鉛筆の持ち方、姿勢、運筆も指導する。

指導の工夫

- ・学んだ語彙が増えてきたらカルタ遊びやしりとりなどで楽しく練習できるようにする。

しりとりカード



日本語基礎2 発音・文字(語彙も合わせて) 活動例2

学習項目 「長音」

活動(指導の流れ)

1	「おばさん・おばあさん」など長音によって意味が変わる言葉を取り上げ、発音する。
2	家族の言い方を覚える。
3	長音に気をつけ、書く。

留意点

下の活動にはそれぞれ異なる力が必要。
どの力を高めるか意識して練習活動を行う。

- ・音を聞かせて文字をとる(音と文字の一致)
- ・文字を見せて発音させる(文字の正しい発音)
- ・語を発音して絵カードを取らせる(語の意味)
- ・語彙文字カードを見て言わせる(文字を音読)
- ・絵カードと文字語彙カードをマッチングさせる(語の意味と綴り)

指導の工夫

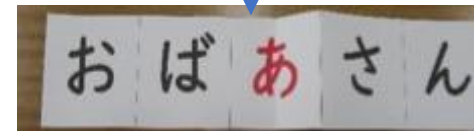
- ・長音の拍を意識できるよう、動作化、カードの長さで視覚的に示す。
- ・一部だけ異なるカード(ミニマルペアカード)で、聞かせ、読ませる。
- ・語を書くときに長音が抜けないように、聞いて書く練習を継続して行う。

ロイさん(1週目~):

仮名は既習であるが、表記が不正確な可能性がある。
書き取りで点検し、必要に応じて実施する。

テンテンさん(4週目~):

清濁、撥音の有無なども合わせて、ミニマルペアで文字の並びと音の関係に気づかせるようにして、練習する。



日本語基礎3 語彙 活動例1

学習項目の選び方:生活場面に関連のある語彙のグループを作って教える。

教え方:実物や写真、絵やカードなど視覚的教材を使用して導入したあと、場面を設定して繰り返し聞かせたり、活動の中で話させたり、読ませたり書かせたりする。

学習項目「文房具」

アンさん(2週目~):実物+「~ある・ない」。聞いてわかる、話すことができるを目標に。

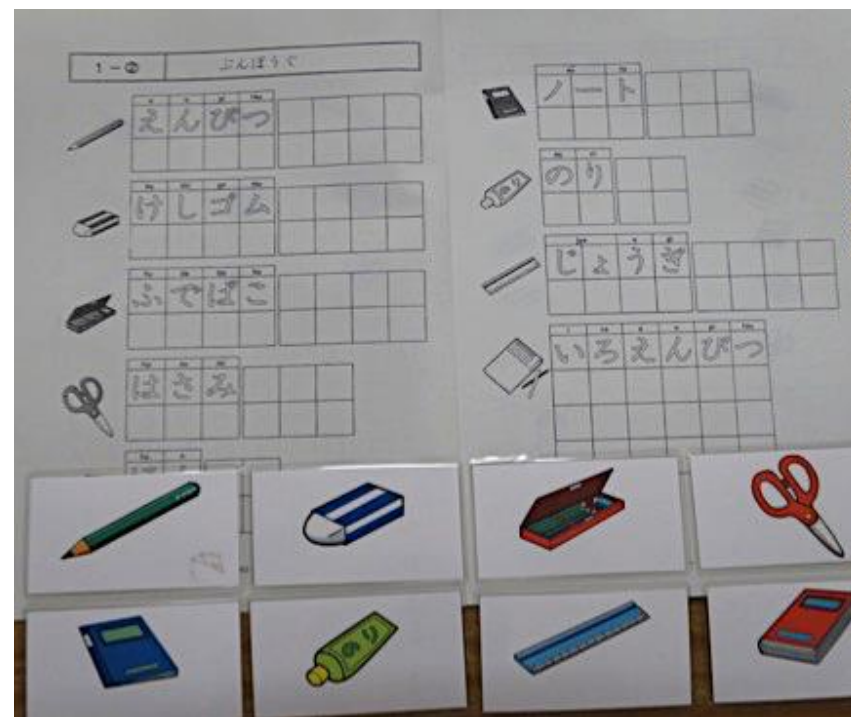
活動(指導の流れ)

テンテンさん(1週目~):語彙カード等で「~がある・ない」。平仮名を書く練習も合わせて。

1	実物やイラストを見せて、名前を確認する。
2	サバイバル日本語の「ある・ない」の言い方と合わせて「~ある・ない」を練習する。
3	文房具の名前を書かせ、定着させる。

留意点:

- ・毎日5~10語程度覚えさせるなど、子どもの負担を考慮して導入する語彙数を調整する。
- ・記憶・想起を促進するために、この例のように「文具名」あるいは「気持ちを表す語」など、関連のある語を集めて導入する。



日本語基礎4 語彙(文型も合わせて) 活動例2

学習項目 着脱動詞「きます／はきます／かぶります
／します／ぬぎます」(水泳指導に関連づけて)

活動(指導の流れ)

1	①実物やイラストを見せて、水泳の持ち物を確認する。(水着、水泳帽、ゴーグル、タオル、水泳カードなど)
2	②着脱動詞を言いながら動作化し、次にイラストや動作を見て動詞を言う活動で、意味を理解する。 ③衣類と動詞のマッチングゲームをし、文を作る。
3	④絵を見て「～を(着脱動詞)ます」の文を書く。服装に関する文を読んで、該当する絵を選ぶ。

留意点:

- ・動詞を単独で教えるのではなく、行為の対象物と結びつけて教える。
- ・他にも、サバイバル日本語の学習に関連づけ、掃除や音楽、図工(美術)等の生活・学習場面を設定して、道具と動作(動詞)の語彙学習等を行う。

アンさん(3か月～):プール開きに合わせて、実物を使って動作化したり、水泳学習の場面を設定したゲームで、聞いて分かることを目標に。

テンテンさん(3週目～):文型「～を(他動詞)」の学習の一環として行う。目的語を分類して動詞と目的語の関係の理解を促す。書く、読むことも目標に。



日本語基礎5 文字と語彙の組み合わせ例

五十音順を重視して教える場合	語彙を関係づけて教える場合
<p>①文字:あ・い・う・え・お か・き・く・け・こ 語彙:あお、あか、いけ、うえ、かき</p>	<p>①語彙:【教室の中】い<u>す</u>、<u>つ</u>くえ、<u>と</u>けい 文字:新出文字「つ・と」他は復習</p>
<p>②文字:さ・し・す・せ・そ 語彙:あ<u>し</u>、う<u>し</u>、い<u>し</u>、い<u>す</u>、す<u>い</u>か</p>	<p>②語彙:【食べ物】<u>に</u>く、さ<u>か</u>な、<u>な</u>す、す<u>い</u>か 文字:新出文字「な・に」 他は復習</p>
<p>③文字:た・ち・つ・て・と 語彙:つ<u>き</u>、く<u>つ</u>、く<u>ち</u>、<u>と</u>けい、<u>つ</u>くえ</p>	<p>③語彙:【動物】い<u>ぬ</u>、<u>ね</u>こ、た<u>ぬ</u>き、き<u>つ</u>ね 文字:新出文字「ぬ・ね」 他は復習</p>
<p>④文字:な・に・ぬ・ね・の 語彙:ね<u>こ</u>、い<u>ぬ</u>、<u>に</u>く、<u>な</u>す、さ<u>か</u>な</p>	<p>④語彙:【体の部位】<u>は</u>、<u>め</u>、<u>は</u>な、く<u>ち</u>、<u>み</u>み 文字:新出文字「は・め・み」 他は復習</p>
	<p>⑤語彙:【教科名】こ<u>く</u>ご、お<u>ん</u>が<u>く</u>、<u>ず</u>こう 文字:新出文字「が・ご・ず」 清音は復習</p>

日本語基礎6 文型

アンさん(3か月～): 時間割の見方を理解し、次の日の教科を確認して教科書等の持ち物を準備できるような活動にしてもよい。

学習項目の選び方: 名詞文⇒動詞文⇒形容詞文と、単純なものから長く複雑な構造の文型へと、順に教えることを基本とするが、児童生徒が生活・学習で必要な文型・表現を積極的に取り上げ、自然に身につけた表現を把握した上で教える項目を選択する。

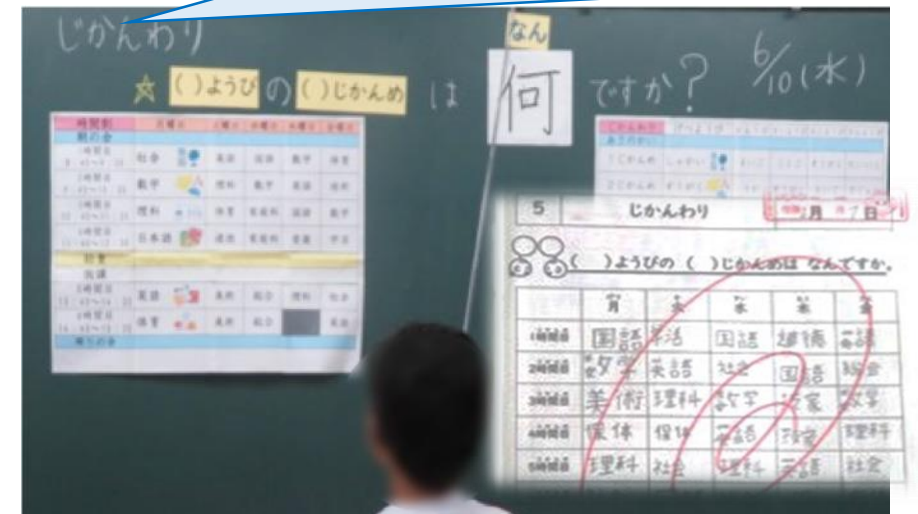
教え方: 場面を設定して、意味と文法・構造の**導入**の後、正しさのための**基本練習**、運用のための**応用練習**を組み合わせる。学校低学年は実際の場面での運用練習を中心に。肯定文—否定文—疑問文(YES/NO 疑問詞)を、応答練習(Q&A)等で取り扱う。

活動例1 学習項目(文型)「月曜日の1時間目は国語です」

活動(指導の流れ)

テンテンさん(2週目～): 「私の本」等の「(名詞)の(名詞)」の学習とともに扱う。応用として「国語の先生は～先生です」等も取り上げられる。なお、教科名は漢字表記でも理解できるように平仮名を振って示す。

1	①曜日の復習し、時間割を見て、関連語彙(～時間目、教科名)の確認をする。 ②「～(曜日)の～(時間目)は～です」の意味を知る。(導入)
2	③文型「～曜日の～時間目は～です」を使って時間割について話す。(基礎練習) ④疑問詞「何」を使って、「～(曜日)の～(時間目)は何ですか」の応答練習をする。
3	⑤隣のクラスの時間割を尋ね、時間割を書く。(応用練習)



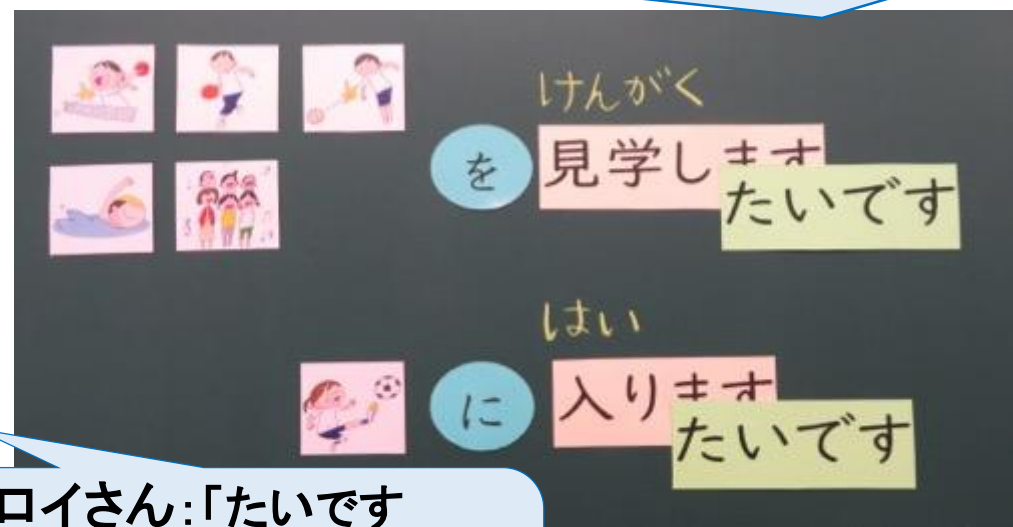
日本語基礎7 文型 活動例2

学習項目(文型)「私は～を～たいです」(願望)
(部活動入部、係活動等に関連づけて)

活動(指導の流れ)

1	①部活動の様子を紹介した写真やビデオで、部活動の内容と名前(語彙)を知る。 ②部活をするかどうかやり取りをして、「私は～に入りたいです／～を見学したいです」を理解する。(導入)
2	③イラストと動詞カードで、文型のリピート練習、代入(部活名を変更)練習をする。(基礎練習) ④動詞の「～たい」形の変形(変換)練習をする。 ⑤「私は、～を～たいです」の文作りをする。
3	⑥部活動の申込書(または見学希望書)に「私は～を～たいです」の文型を使って、記入する。(応用練習)

アンさん(5か月～):係決めの場面で、「私は、～係がしたいです」と表現を変更して、活動①②③まで。
テンテンさん:1か月目頃に部活動の入部時期であれば①②③⑥の活動で実施。3か月目以降は、基礎練習の④⑤も行い、他の動詞、場面でも応用できるようにする。



ロイさん:「たいです／たいと思います」等の願望の表現の使い分けを教える。

読みます
たい (たい形)

およぎます ⇒ およぎたい
うたいます ⇒
みます ⇒
します ⇒

留意点・願望表現は三人称、二人称(疑問文はOK)では使えないことに気をつけて練習させる(教える前に、日本語の用法等について調べておく)。
・係活動や野外教育活動の役割決定等の場面・状況を設定し、学んだ文型・表現を使って希望や意思について話し合う、質問する、書く等で運用力を高める。

日本語基礎8 文型 学習項目(シラバス)の例

来日直後の1~2週間 (サバイバル日本語として)	3~4週	5週~
<ul style="list-style-type: none"> ・「~は~です」 わたしは~です。 ・「(動詞)てください」 書いてください。 ・「(動詞)てもいいですか。」 トイレに行ってもいいですか。 ・「~は~を(動詞)ます」 私はパンを食べます。 ・「~は~が~です。」 私は頭が痛いです。 私は音楽が好きです。 ・「~の~」 私の本、体育の先生、机の中 ・「~と~ます。」 これを日本語で~といいます 	<ul style="list-style-type: none"> ・「~は~に(動詞)ます。」 私は7時に起きます。 ・「~は~で(動詞)ます。」 私は家で食べます。 ・「~は~で(動詞)ます。」 私は鉛筆で書きます。 ・「~は~で(動詞)ます。」 私は風邪で休みます。 ・「~は~へ(動詞)ます。」 私は図書室へ行きます。 ・「~から~まで」 5時から8時まで。 家から学校まで。 ・「(動詞)たいです。」 食べたいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「~に~があります・います」 ・「~(こと)ができます」 日本語を話すことができます。 ・「~は(イ形容詞)です」 このかばんは大きいです。 ・「~は(ナ形容詞)です」 私は元気です。 ・「~と~と、どっちのほうが~。」 犬と猫とどっちの方が好きですか。 ・「~は~より~。」 先生は私より高いです。 ・「~の中で~が一番~。」 教科の中で体育が一番好きです。 ・「~は~に~を~ます。」 私は弟に本をあげます。

4 初期段階の日本語指導の留意点

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
いちがつ	にがつ	さんがつ	しがつ	ごがつ	ろくがつ	しちがつ	はちがつ	くがつ	じゅうがつ	じゅういちがつ	じゅうにがつ
日	月	火	水	木	金	土					
にちようび	げつようび	かようび	すいようび	もくようび	きんようび	どようび					
	1	2	3	4	5	6					
	ついたち	ふつか	みっか	よっか	いつか	むいか					
7	8	9	10	11	12	13					
なのか	ようか	このか	とおか	じゅういちにち	じゅうににち	じゅうさんにち					
14	15	16	17	18	19	20					
じゅうよっか	じゅうごにち	じゅうろくにち	じゅうしちにち	じゅうはちにち	じゅうくにち	はつか					
21	22	23	24	25	26	27					
にじゅういちにち	にじゅうににち	にじゅうさんにち	にじゅうよっか	にじゅうごにち	にじゅうろくにち	にじゅうしちにち					
28	29	30	31	カレンダー①							
にじゅうはちにち	にじゅうくにち	さんじゅうにち	さんじゅういちにち								



言語活動の設計

- 日本語の構造的な体系を重視しつつ、
子供の実態に合った内容を
- 子どもたちが自分の経験や力を生かせる活動で
- 子供たちの生活・学習場面の課題解決のために
日本語を運用できるように場面設定をして
- 説明や単なる反復練習ではなく、多様な場面・
状況で、日本語を使う機会を提供し、
スパイラルに力を高められるように

- ★ 1時間の構成
「1項目で1時間」では集中力が続きにくい。
複数のプログラム内容を組み合わせ
関連づけて実施することが重要。

今日、図書係の仕事をしました。終わりの会で、
クラスメイトが「図書係のロイさんが頑張ったから、
本棚がきれいになりました」と言われて、とても、
うれしくなりました。



5年生になってから
宿題が多くなりました。



掃除をして、きれいになりました。



7月になりました。
トマトが大きくなりました。
赤くなりました。



多様性に応じた指導のために(確認)

目標、学習項目(日本語の)の選択、場面設定、活動の決定

- ①その児童生徒は生活・学習場面でどのような課題・問題に遭遇しているのか。
できていることは何か?どんな力があればできるか? → **具体的な目標の設定**
- ②その問題を解決するためには、どのような日本語の語彙・表現が必要なのか。
→ **学習項目の選定**
- ③ ②の日本語を使って、何ができるようになれば課題・問題が解決できるのか。
周囲の子どもや先生・地域の人と対話して解決するには、日本語でどのような
コミュニケーションができるようになればよいか。 → **場面設定・活動の決定**

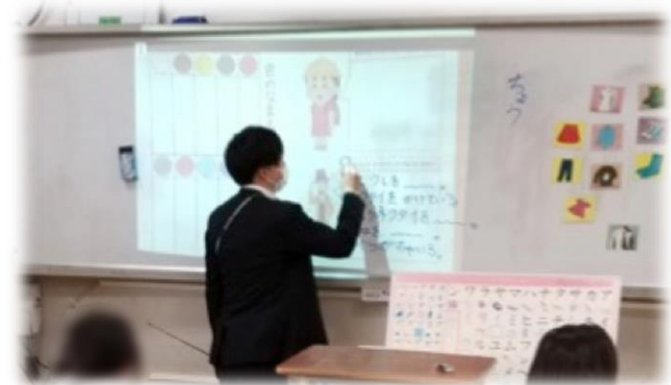
様々なリソースを活用して

○ICT等の利用

- ・オンラインで
- ・デジタル教科書・教材を活用して

○クラスメイトや先生方・地域の支援者(人的なリソース)

○地域のNPO等の支援活動、高等学校・大学の教育ボランティア活動等(社会的リソース)



関連Webサイト

文部科学省

- ・「外国人児童生徒受入れの手引き」2019年3月改訂版

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/1304668.htm

- ・海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育等に関するホームページ「CLARINETへようこそ」

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm

- ・帰国・外国人児童生徒のための情報検索サイト「かすたねっと」

<https://casta-net.mext.go.jp>

- ・「外国につながる子供向けの教材が知りたい！」

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_00663.html

文部科学省委託
「日本語指導が必要な児童生徒等の教育支援基盤整備事業(動画コンテンツ開発)」

研修用動画コンテンツ 3 日本語指導の方法 1

著作権者： 文部科学省
担当講師： 齋藤ひろみ(東京学芸大学)
 築樋博子(豊橋市教育委員会)
写真提供： 新宿区立大久保小学校 福生市立福生第一小学校
企画構成： 日本語指導が必要な児童生徒等の教育支援動画コンテンツ開発委員会
 制作： 毎日映画社
 発行： 2021年3月31日



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN